

仕事と生活の調和

経営者が事例報告

出雲で講演会

ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)をテーマにした講演会が25日、出雲市大津町の出雲商工会館であり、経営者や経済団体職員ら80人が、県内の事例を通じて働き方や社内制度について考えた。

2008年に「ワーク・ライフ・バランス大賞」組織活動部門優秀賞を受けた長岡塗装店(松江市)の古志野純子常務が「会社の一番の財産は社員!!」と題して取り組みを報告した。

ベテラン職人の「若い人が育たないのは会社のせい」との言葉をきっかけに、働きやすい環境づくりに尽力し、30分単位で取得できる看護休暇や70歳までの継続雇用制度などを設けたことを紹介。必要に応じた社内制度の変更と社員への説明の大切さを指摘し、「ワーク・ライフ・バランスは仕事に効果が出る働き方を実現するための仕組み」と訴えた。

この後、パネルディスカッションがあり、出雲市内の事業所の代表ら2人が古志野常務を交えて意見交換した。

講演会は、出雲市と市男女共同参画まちづくりネットワーク会議が開いた。